

図書館たより

号 数 第 47 号
発行日 昭和55年6月20日
編 集 島根県立図書館
発 行 松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印 刷 渡 部 印 刷

日原町では、図書センターから公共図書館へと移行し、この制度の成果が現われた。

本年度もまた新しい図書センターが3町村に誕生した。これで県下14町村で、将来町村立図書館を設置しようという気運が漲ってきたといえよう。

新図書センターのプロフィールを次に紹介する。

多伎町

設置場所 多伎町公民館
担当者 吉川近義 柳楽仁司
貸出時間 9時より17時まで
蔵書冊数 1,000冊
図書購入費 110万円(内ライオンズクラブから)
特 色 (の寄贈50万円)

昨年11月、国道沿いに社会教育の拠点としての公民館が完成、47㎡の図書室も整備された。これを機に今年度は心豊かな明るい町づくりをめざしてという基本方針に沿って県立図書館に図書センターの指定をお願いしたわけである。

本町は、その大半が山林であり、海岸線にある平地と町内を流れる三つの川に沿って集落が点在しているところから、これまで一般の貸出しとともに、月2回、町内4か所を巡回し移動文庫を行ってきた。今年度はこれに加えて町内の有志の方にお越し家庭文庫を開設、図書の幅広い利用を計るとともに、各幼稚園、児童館に幼児図書を配本し、母親クラブ等の協力を得て親子読書運動を推進していく計画である。

町立図書館誕生へ!!

前述した様な普及活動の活発化を助長していくとともに毎年500冊ずつの図書整備計画を立て、5年後には町立図書館への移行をめざしている。いつでも、だれでも、気軽に利用出来る住民のたまり場としての町立図書館の誕生を、まさに今年度は本町にとって記念すべき第一歩をふみ出す年である。

弥栄村

設置場所 杵束公民館図書室
担当者 串崎 法之
貸出期間 15日間
蔵書冊数 10,000冊
図書購入費 30万円

現状 寄贈を中心にした1万冊強と、県立図書館より借りた3千冊で運営している。

配本は、地区ごとに利用しやすい——なるべく身近に本がある——よう考慮して、役場会議室、公民館ロビー、福祉センター図書室の三カ所に行っている。

これらの所は他の目的の室であり、図書室も敢て半分のスペースを小会議や研修ができるようにした。本になじみの少ない人にも、なるべく本と接する機会を多くしようと考えたからである。

その他、中学校寄宿舎や2ヶ所の保育園にも配本を行っている。保育所にすべての幼児が通っているの、ここによい本を置き、自ら選んで持ち帰らせ、お母さんの読み聞かせをせがむのである。お母さんには全員幼児学級生になってもらい、絵本の持つ意味を重ね

て研修してきた。

課題 広い不便な土地に2千人が散在する村では地域への配本が待たれている。地域貸出しのPRも及ばず、まだ一ヶ所である。

今後は、昨年生れた読書会が育ち、この会員が地域や職場での世話役となってくれる時、これを拠点にした配本所、車での巡回を夢みている。

新図書センターの横顔

東出雲町

設置場所 東出雲町民会館
担 当 者 越野みゆき、新見淑子、越野由美子
貸 出 時 間 10時から17時まで（火・土休館）
蔵 書 冊 数 7,700冊
図書購入費 100万円
特 色

(1) 現状

昭和52年、中央公民館図書室として町民会館建設時にスタートした時は、250冊のわずかな図書と、年数回の県巡回自動車文庫を心待ちにする状況であった。年毎に蔵書も増し、本年度も 100万円の予算を組み、現在県貸与分も含め 7,700冊となった。人間にたとえるなら成長期にある中学生といえる。

(2) 子どもと読書

公民館、図書室は生涯教育の拠点である。一生を通して読書に親しむために、地区の図書室は重要な役割を担っている。

特に、児童に対しては、読書は幼児期から楽しい遊びのひとつとして、絵本・物語の世界を経験させたい。

(3) 課題

読書は生活に潤いと希望を与え、自分の持つ世界を広げる。身近かで本を得ることができたら、より多くの人が広い世界をもてる。町では2地区の公民館と1保育園に配本し、親子読書の普及と、読書グループの育成に力を入れていきたい。

昭和54年度 図書センター分類別利用状況と図書購入内訳

●図書センター分類別利用状況（センターにおける個人貸出のみ）

設置町	分類	総記	宗教・哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・家事	産業	芸術	スポーツ	語学	文学	児童	計	回転率	購入図書内訳				計
																参図 考書	児図 童書	娯図 楽書	郷実 用土 図・書	
石見町	—	—	1	9	—	4	2	2	4	265	704	991	0.49	200	938	1,038	1,351	3,527		
仁摩町	30	28	29	64	21	75	30	95	17	822	888	2,099	1.04	2	121	271	199	593		
日原町	8	31	35	84	42	38	17	67	8	615	1,822	2,767	1.38	15	258	229	115	617		
匹見町	1	3	11	17	9	6	1	18	6	195	1,118	1,385	0.69	15	189	5	155	364		
赤来町	20	19	56	29	42	75	49	90	30	267	1,467	2,144	0.71	33	191	163	72	459		
佐田町	19	17	28	16	10	37	22	16	8	383	1,105	1,661	0.55	1	324	140	106	571		
瑞穂町	10	17	21	33	32	70	17	133	2	309	2,417	3,061	1.02	0	277	46	95	418		
広瀬町	8	—	13	8	—	—	—	58	1	93	2,841	3,022	1.20	0	545	130	49	724		
旭町	21	59	62	82	84	97	85	73	5	938	1,092	2,598	1.03	0	35	145	71	251		
横田町	34	36	36	38	39	35	21	70	10	1,305	2,623	4,247	1.41	5	92	69	119	285		
三刀屋町	10	15	22	53	14	41	15	33	7	465	966	1,641	0.54	8	125	70	59	262		
西郷町	49	20	84	123	40	48	29	132	8	643	1,838	3,014	1.00	0	447	235	121	803		
計	210	245	398	556	333	526	288	787	106	6,300	18,881	28,630	0.92							
%	0.7	0.9	1.5	1.5	1.2	1.8	1	3	0.4	22	66	100								

問 海岸線の長い島根県では、古来、海事関係の事件が数多く起こっていると思いますが、そのいくつかを紹介してください。

答 おっしゃる通り、数多くの事件が起きていますが、近代以降に限ってみた場合、まず挙げなければならないのは、イルティシュ号事件と海軍美保関事件でしょう。

イルティシュ号事件

この事件は日露戦争の最中に発生しました。明治38年(1905)5月27日、東郷平八郎大将の率いる日本海軍は、北進するロシアバルチック艦隊を日本海に迎え撃ち、大きな打撃を与えました。いわゆる日本海大海戦です。イルティシュ号(7,500トン)はこのバルチック艦隊の軍用輸送船でしたが、27日午後7時ごろには数個の砲弾を受けて浸水甚だしく、航行は極めて困難となりました。エルゴムイセフ艦長は、ともかくウラジオストックを目ざして必死に航行を試みたのですが、翌28日には艦の沈没はもはや避けられず、ついに午後2時ごろ、那賀郡都濃村(江津市)和木の真島沖2カイリの地点で碇を下ろし、乗組員265名が6隻のボートで下艦を開始しました。一方、和木の村民は、昨日午後から海上で聞こえる遠雷のような音が、日本海大海戦とも知らず、穏かな日曜日を迎えていました。そこへ、4本マストの軍艦がよろめくように沖合へ現われ、白旗をかかげたボートが近づくのを見て驚き、浜は大変な騒動となりました。しかし、白旗をたて、武器を海上に捨てる異国の兵士達を見るや、村人達は懸命に救助にあたりました。男は泳いでボートを引きにいき、女・子どもは、怪我をし疲れ切ったロシア兵を浜へ引きあげる作業を助けたのです。重軽傷者28名を含む乗務員全員と、所持品の引揚げが終ったのは午後6時をすぎた頃だったといえます。緊急連絡を受けた浜田連隊から、1個小隊が和木に到着したのが午後7時頃で、その夜は、和木小学校・嘉久志小学校・嘉久志の民家へ分散させて収容し、浜田連隊の軍医・看護兵によって負傷者は手当てをうけました。そして、翌29日、負傷者と荷物は漁船で、その他の兵士は徒歩で浜田へ送られていったのです。イルティシュ号もその日、海底に消えました。その後、明治39年頃から和木では、5月28日にロシア祭という記念行事を行っていましたが、近年はその行事も実行されなくなったそうです。

なお、これとは別に、隠岐島では、海戦の時なくなったロシア兵の死体が島に流れ着き、島民によって手厚く葬まれたのですが、和木のイルティシュ号事件と共に愛と善意の心暖まる話です。

美保関事件

昭和2年8月24日午後11時20分に、演習中の巡洋艦「神通」と駆逐艦「蕨」が衝突し、「蕨」は沈没して五十嵐艦長はじめ、97名が死に、同時に巡洋艦「那珂」と駆逐艦「葦」は沈没をまぬがれたものの、犠牲者27名を出した悲惨な事件です。8月22日、軍艦「長門」を旗艦とする連合艦隊60余隻は、美保関に入港し、地元の大歓迎をうけ、軍楽隊も松江市で演奏会を催したりしました。24日午後8時に美保関港を出、舞鶴に航行中、大演習が行われました。全消燈した主力艦を、駆逐艦が追いかけて魚雷攻撃をするという想定で行われたのですが、暗夜と煙幕の中で、距離を誤測して、「蕨」が主力艦を追い込め、そこへ「神通」が衝突してしまい、「那珂」と「葦」の衝突も同時に発生してしまったのです。「蕨」は胴体が真二つにさけ、29秒で海底に没し、地元をはじめ、関係者の必死の搜索にもかかわらず、多くの犠牲者の遺体は発見されなかったといわれます。五本松公園には、慰霊碑が建っています。

参考文献

『イルティシュ号と和木』 江津市和木公民館刊 昭42

『イルティシュ号の来た日』 難波利三著 別冊文芸春秋128号 昭49

『黒き日本海に消ゆー海軍美保関遭難事件ー』 五十嵐邁著 講談社 昭53

『明治38年5月～6月 山陰新聞』

『昭和2年8月 山陰新聞』

こどもの本 (5)

— 絵本から童話へ —

なぞなぞの好きな女の子

松岡享子さく

大社玲子 え

学習研究社 ¥650

なぞなぞあそびの大好きな女の子と、はらぺこのオオカミが森でばったり出会う。うまさうな女の子だぞ……と舌なめずりしたとたん、女の子になぞなぞを出されてオオカミは大弱り。オオカミが目をつむって、頭に手をあてて考えている間に、女の子はまんまと家に逃げ帰る。間ぬけなオオカミと女の子の明るいなぞなぞと機転に富んだ行動が楽しめる。

ストーリーのおもしろさと、明るくのびのびとした絵に助けられて、読書に馴れない子にも抵抗なく読めそう。最初、人形劇用に書かれたものだけに物語の展開や登場人物の会話に、子どもの呼吸にあった快いリズムがある。

おいしいのぼうけん

ふるたたるひ さく

たばたせいいち

童心社 ¥950

さくら保育園でかわいいものは、押しいれとねずみばあさん。いうことをきかないと押しいれの中に入れられ、ねずみばあさんににらまれる。昼寝の時、さとしとあきは、ミニカーの取りあいでけんかになり、ふたりとも押しいれのなかへ入れられる。

くらい押しいれのなかは、夜の山と夜の海、二人はミニカーに乗って走り出す。その時、突然ねずみばあさんの声が……。必死で逃げだす二人の行く手に起るかずかずの不思議な冒険が、子どもの好奇心をかりたてる絵本。

いやいやえん

中川季枝子作

大村百合子絵

福音館書店 ¥750

あばれんぼうで、きかんぼうの男の子、しげるを主人公とした、ちゅうりっぷ保育園の楽しい話七編。想像力のゆたかな幼児の心理、幼児の生活が、的確に、しかもあざやかにとらえられ、いきいきと表現されている。ゆかいな空想の中に遊ぶ子どもの心の芽が、明るく伸びていくように配慮されながらも、教訓的な押しつけを感じさせない楽しさがある。ペンの挿絵はのびのびと明るく、話にぴったり。出版以来、子どもたちに愛され親しまれ、日本の幼年童話の代表的傑作にあげられている。

スーホの白い馬

大塚勇三再話

赤羽末吉 画

福音館書店 ¥850

モンゴルの楽器!!馬頭琴!!の由来を語る形で展開されるモンゴル民話。羊飼いの少年スーホが命を助けた白い子馬がやがてたくましく育ち、殿様のおふれの競馬で一等になる。が殿様は約束のほうびも与えぬばかりか力づくで馬をとりあげてしまう。ある日白馬は、背にまたがった殿様を地面にたたきつけ体中に矢を射込まれながらも必死にスーホの所へ帰って来て死ぬ。死んだ愛馬のもので作った馬頭琴をかきならして歌う少年の心が、じかに響いてくる美しくも悲しい物語である。

画面いっぱいに広大なモンゴルの平原を描いた絵はすばらしく、哀切な物語とともに読む者に深い感動をあたえる。絵本スタイルではあるが、内容が味わえるには2、3年生ごろが適当。

ちいさいうち

バージニア・リー・パートン文・絵

石井桃子訳

岩崎書店 ¥1,000

静かないなかの丘の上に一軒の小さいうちがあった。小さいうちは、四季おりおりの自然を眺めてしあわせにくらしていた。ところがある日、自動車がやってきた。この日から、小さいうちの囲りに家が建ち並び、電車が走り、地下鉄が通り、いつの間にか大都市の騒音の中にまきこまれて、もう月や星を見ることもできなくなってしまった。静かな田園から大都市への変化を小さいうちの心情とマッチさせながら、色彩豊かに、きめ細かく描いた詩情溢れる絵物語。人間の生活に自然がどんなに大切かということ子ども心に印象づける。原書は1942年のアメリカの出版で、絵本の古典的傑作に数えられている。

